

平成 30 年 10 月 1 日

京口門だより No. 60

今年は秋もなぜか足早に涼しさから寒さ変わってくるような気がします。

「芒原十月の雲流れけり」[松原為王]

風邪ひきも増えてきますが、市販の風邪薬などにたよらず、うまく漢方薬を用いて治してほしいと思います。ちなみに風邪の漢方薬についての説明書を出しておきますのでご利用下さい。

現代医学では病気についての考え方が時代とともに変わってゆくことがあります。たとえば肝臓の病気は、かつては酒飲みの病気のようにとらえられていた時代がありました。今もそれは変わらない面もありますが、1960～1970 年代にかけてウィルスによる肝炎が見出されて、肝炎の治療にはウィルス対策がおもな関心ごととなりました。しかし 1980 年代からは非アルコール性肝炎という考えが、肝臓の病気の重要な見方になってきました。ひとつはウィルスによる肝炎の対策や治療にめどがたつたからと言われています。B 型肝炎などまだ治療が難しいものも残されていますが、健診などで脂肪肝といって、肝臓の中に脂肪がたまっていたり、そのせいで肝障害をきたしている人が見つかってきました。それは何もお酒を飲む人だけでなく、ほとんど飲酒もしない人に脂肪肝がおこってきます。食事に脂肪分や乳製品が多く、肥満で運動不足や糖尿病がある人などによく見られるといわれています。街でみかけるお腹の出たサラリーマンなどが典型的な例でしょう。研究によれば、このような人の肝臓は細胞が風船のように膨らんで肝臓の障害が起こり、進行した脂肪肝では肝臓の線維化が進み、慢性の肝臓病になってしまいます。

非アルコール性肝疾患は、糖尿病を悪化させ、動脈硬化を進行させて心血管系の病気である狭心症・心筋梗塞や高血圧を起こしやすくします。また最近では歯周病との関係もあるとされ、糖尿病を悪化させ、腸内細菌に影響を与えられているといわれています。歯周病には最近さまざまな歯磨き剤が出ています。むろん歯科にて治療されることもあるでしょうが、当診療所にもピオレという歯磨きがあります。また歯周病が進行している場合には有効な漢方薬もあります。

ともかく非アルコール性肝疾患を防ぐためには、肥満に気をつけ、運動不足にならないよう注意する必要があります。

